



てから、下請・孫請との間に考え方のずれによるぎくしゃくした関係が生じていることはないのか。

**A** シュラウド工事のような場合には社員

は常時現場にいますが、配管工事のような場合には、ポイント、ポイントでのチェック。

東電社員は元請企業と机上でのやり取りが多くなり、現場との考えにずれがあったりした。夏前から元請企業だけでなく下請企業とも直接話をし、その中での

指摘や意見を仕事に反映させる取り組みを実施。現場作業員との意思疎通を図っていく必要性を感じている。

●点検・清掃の状況

**Q** サプレッションプールの点検・清掃は4〜5年に一度とのことだが、過去にも今回、回収されたようなものがあつたのか。

汚染された物を持ち出すことが困難なので意図的に落とすという事はないのか。

**A** 平成12年から14年の間にプールを点検したが、その際出てきたのは針金やビニール袋等。工具類は出ていない。

工具等は表面が汚染される事があり、管理区域内だけで使えるよう保管している場合もある。意図的という点については、聞き取り調査では明白な動機は見あたらなかった。

●安全性

**Q** 吸水口が2つあるから安全との説明だが、これだけゴミが落ちていてECCSが作動しても、安全性には支障がないのか。

※ECCS（非常用炉心冷却装置）…原子炉の配管が破断するなどして原子炉内の水

が失われた場合、直ちに炉心に水を注入して炉心を冷やす安全システム。注入する水はサプレッションプールなどからポンプでくみ上げる。

**A** 吸水口が塞がれることを考え、2ヶ所に吸い込み口が分かれており、更に吸い込み口には網がありゴミ等入らないようになっている。

**Q** 説明通りでも、1ヶ所が詰まれば出力等も減る。何はともあれ安全だとする言い方はやめた方がいいのではないか。

**A** ご指摘の点は、安全設計上の考えとして大事な点で、吸い込み口を2つに分けて片方塞がれても大丈夫だとか、多種のポンプを用意して代替できるなどの配慮をしている。これらを含め、今回見つけた物についての評価で安全と確認している。

●混入物の処理等

**Q** ビニールシート等汚染区域で使ったゴミはどう処理されるのか。  
また、制御棒の所にあつた異物はどのように混入したのか。

**A** 発電所内の汚染物焼却施設で焼却処分し、煙の中の放射性物質は何種類ものフィルターを通して浄化、残った灰は全